

徳島教育大綱

(案)

平成27年12月

徳島県

目 次

1	大綱の趣旨	1
2	位置付け	2
3	推進期間	3
4	基本方針	3
5	重点項目	4
6	参考資料	20

1 大綱の趣旨

教育の在り方

教育は、人をつくり、心身ともに健やかな県民の育成を期すとともに、社会の存立・繁栄の基盤を形成するものです。これからの教育は、この社会の根本をなす普遍的な役割を果たすために、社会変化を主体的に見据えた一步先の目指すべき姿を描き、それを実現させていかなければなりません。

取り組むべき課題

我が国の人口は、今後、加速度的に減少することが強く懸念されており、人口減少の克服と東京一極集中の是正を目指す地方創生が、国及び地方にとって、一刻の猶予も許されない待ったなしの課題となっています。

この喫緊の課題に対し、本県は、全国に先んじて全国屈指のブロードバンド環境を活用したサテライトオフィス※・プロジェクトをはじめ、数多くの課題解決の処方箋を創造し、発信してきています。

こうした取り組みをもう一段高い次元へと進化させ、「とくしま新未来」を創造していくためには、本県の現在、そして将来を担う「人づくり」を支える「徳島ならではの」教育が重要であり、これは、まさに地方創生の原動力となるものです。

本県においては、遍路文化やお接待を通じて育まれた「おもてなしの心」、そして、この「おもてなしの心」に裏付けられたベートーヴェン第九アジア初演の地である板東俘虜収容所における奇跡の交流など「人」を大切にする歴史や風土、また、阿波藍の時代から「ものづくり」の伝統に脈々と受け継がれてきた「進取の気質」に満ちた県民性があります。

この歴史と風土、気質を引き継ぎ、さらに進化させることにより、本県の宝である「人」を学校・家庭・地域のみならず、県民挙げてまさに「拳県一致」で育むとともに、子どもたちが持つ無限の可能性をしっかりと花開かせ、誰もが夢に向かって挑戦でき、努力が報われ主役になれる徳島の実現に向け、未来を見据えた教育の充実、効果的な実施に取り組むことが重要です。

教育行政推進の方向性

こうした考え方にに基づき、知事と教育委員会が緊密に連携し、徳島の教育力を結集させ、創意工夫を凝らした教育を実践するため、「徳島教育大綱」を策定します。

今後、総合教育会議*において、随時協議・調整を行いながら施策の進行状況や効果を検証し、着実な推進を図るとともに、常に「子ども目線」に立ち、県民とともに考え、ともに育む「拳県一致」の体制で、本県教育を強力に推進していくとの強い意志のもと、教育関係者や学識経験者、地元企業関係者などからの意見聴取をはじめ、県民の願いや思い、現場の声を大切にして、迅速に教育施策に反映させることにより、「子どもたちの笑顔があふれ、みんなが輝くとくしま」づくりにしっかりと取り組んでいきます。

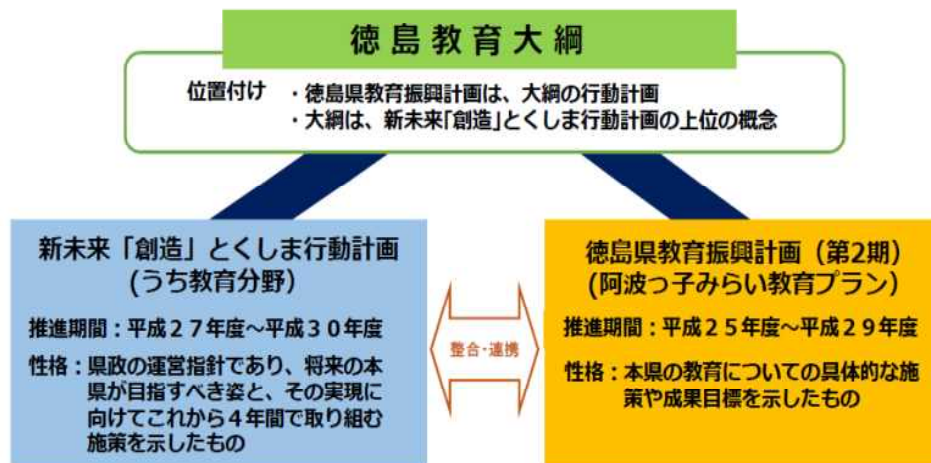
2 位置付け

この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項の規定に基づき、本県における教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものです。

このため、本県教育の振興のための具体的な施策や成果目標を示した「徳島県教育振興計画（第2期）」については、大綱の行動計画としての位置付けとなります。

また、この大綱は、教育分野についての県政運営指針「新未来『創造』とくしま行動計画」の上位の概念として位置付けます。

図1 徳島教育大綱の位置付け



3 推進期間

平成27年度から30年度までの4年間とします。

4 基本方針

「徳島ならではの」の教育により、大きな夢や高い目標を持って、困難にぶつかっても挑戦し続け、未来を切り拓いていく、本県の宝である「人財」の育成を目指します。

とくしまの未来を切り拓く、夢あふれる「人財」の育成

「人財」の具体像

- 社会のグローバル化、情報化、少子高齢化など、社会情勢がめまぐるしく変化する時代において、様々な課題の解決に向けて、新たな視点や発想に基づく価値を創造し、自らの行動により、未来を切り拓いていく人財
- 本県の豊かな自然や伝統文化、新鮮で安全・安心な食材、さらには、全国屈指のブロードバンド環境など、「可能性の宝庫・徳島」の魅力を実感し、徳島に誇りを持つとともに、多様な価値観を理解する人財
- 夢を抱き、その実現に向け、失敗を恐れず、果敢に挑戦する情熱あふれる人財
- 地域や人と人とのつながりを大切にし、生涯を通じて学び成長し続けながら社会に貢献する人財

5 重点項目

基本方針に掲げる人財を育成するため、あらゆる分野・世代の教育力を結集し、「徳島ならではの」の特色あふれる未来志向の教育施策を積極的に推進します。

この施策を着実に推進していくため、組織横断的な体制で取り組むとともに、市町村や関係機関とも、より一層有機的な連携を図り、スピード感を持って各種施策を展開します。

重点項目 I

地方創生から日本創成へ！「徳島ならではの」教育の推進

人口減少に歯止めをかける地方創生の実現に向け、「とくしま新未来」の担い手を生み出す「徳島ならではの」教育を強力に推進します。

時代を先取りした魅力あふれる教育環境を創造し、未来を切り拓く人財を育成することにより、地方創生、ひいては日本創成を成し遂げていきます。

① 個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進

○ 多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進

変化の激しい時代を生きる子どもたちが、それぞれの個性や能力に応じてこれからの社会を生きぬいていく力を身に付け、可能性をしっかりと開花させるための教育を推進します。

学力、スポーツ、文化芸術の各分野を牽引するリーディングハイスクール*による戦略的な学校づくりや新たな可能性を拓く専門学科の創設、高等教育機関との連携・強化など一人ひとりの個性を重視し、可能性を最大限に伸ばす教育を推進します。

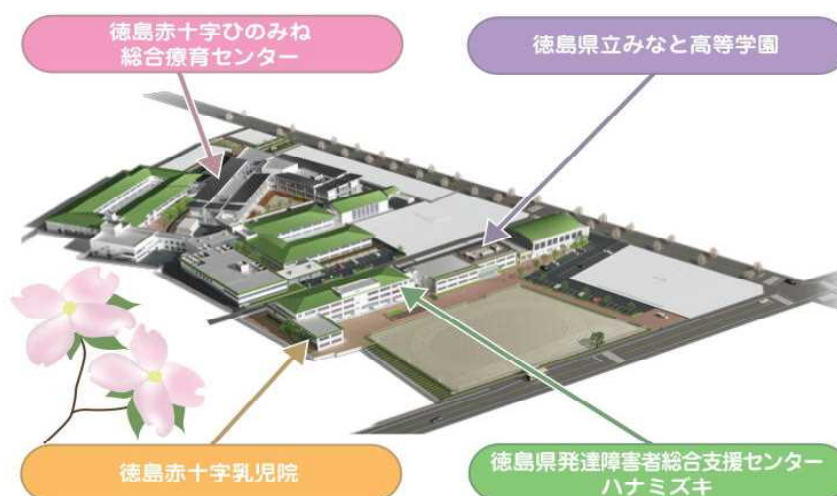


リーディングハイスクール
(名西高校)

○ 障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援

福祉・教育・医療・就労の機能が結集した発達障がい者総合支援ゾーン*を中心とした徳島モデルの推進、障がい福祉サービスと特別支援教育が補完し合った就学前及び在学中の切れ目ない支援、障がい特性を十分に反映した就職、福祉的就労*や進学による自立の促進など、障がいのある人に対する本県ならではの重層的な支援を展開し、それぞれの個性が輝き活躍する機会を創出します。

図2 発達障がい者総合支援ゾーン



○ 次代を生きぬくキャリア教育の推進

予測困難な時代を主体的に考え、生きぬく力を育成するとともに、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けた能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため、幅広い分野を対象に小学校での職場見学や中学校の職業体験、高校におけるインターンシップなど発達段階に応じたキャリア教育*を推進し、社会に貢献する人財の育成を図ります。

大学生やシニア起業家など幅広い年齢層に対応した創業支援を実施するとともに、次代の本県産業界を担う人材育成のための取り組みを進めることにより創業の促進を図ります。



小学生職場体験

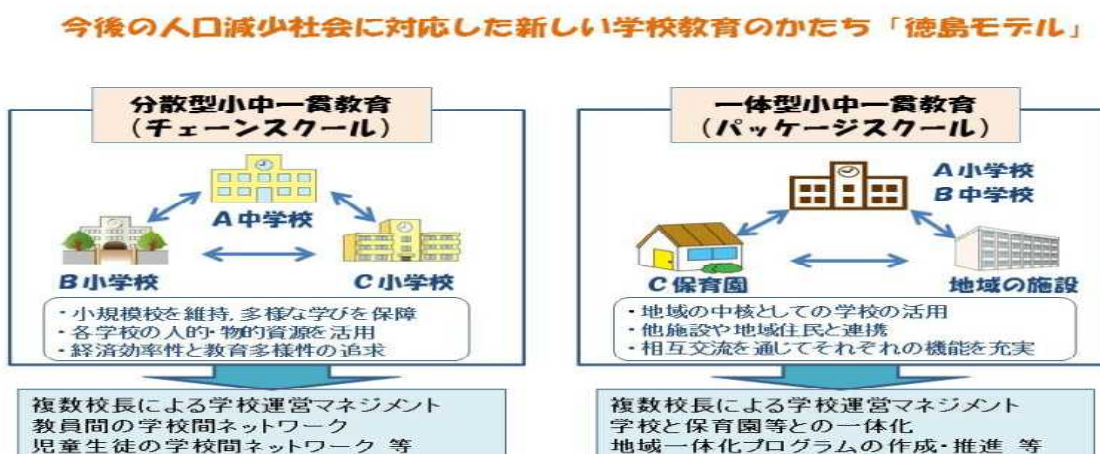
② 人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり

○ 徳島発の小中一貫教育の推進

小規模化する学校を存続させ、かつ教育の質を保障する徳島モデルの小中一貫教育として、地理的に分散した小中学校が人的・物的に連携する「チェーンスクール」、同一地域の学校や保育所、社会教育施設などが地域一体で教育に取り組む「パッケージスクール」という徳島発の小中一貫教育を全県に展開します。

小中一貫教育の強みを活かし、小学校において教科専門の教員が指導に関わることにより、学習への興味や意欲を高め、その楽しさを実感できる授業を実施します。

図3 チェーンスクール、パッケージスクールのイメージ



○ 全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進

本県の強みである「全国屈指の光ブロードバンド環境」を活用し、テレビ会議システムでの遠隔授業の実施や、タブレット端末を取り入れた特色ある指導方法の確立など、ICTを効果的に活用し、教育の多様化と効率化を図るとともに、スーパーハイビジョン（4K・8K）の教育分野での展開を推進します。



遠隔授業（海部高校）

○ 二地域居住を加速する学校間移動の実現

二地域居住を促進するため、地方と都市の学校間移動を容易にし、双方で教育を受けることにより、それぞれの良さを実感し、多様な価値観を身につけることができる「デュアルスクール」を創設します。

図4 デュアルスクールのイメージ



③ 災害を迎え撃つ防災教育の推進

○ 防災知識の普及・啓発等の推進

南海トラフの巨大地震をはじめとする震災、風水害、火災等の災害から、生命・身体・財産を守り、被害を最小限に抑えるために、すべての県民が各自の状況に応じた自助、共助の防災活動ができることを目指し、幼児期から発達段階に応じてあらゆる機会を通じて防災についての理解と関心を深めることができるよう、防災啓発・防災生涯学習を推進します。

○ 学校を核とした地域防災力の向上

県立学校の避難所としての機能を強化するとともに、消防団や自主防災組織*といった、地域の様々な主体との緊密な連携による防災学習や訓練を実施することにより、地域の一員としての防災意識の一層の向上、災害発生時における支援活動への積極的な参画を促進し、地域と協働の防災体制づくりを推進します。



地域防災訓練での炊き出し
(板野高校)

○ **地域防災を担う人財の育成**

未来の担い手となる中学・高校生も含めて、自主防災組織等の活動における地域防災リーダー*として、防災士の資格取得を推進し、学校の防災クラブ活動や徳島県立防災センターの防災啓発サポーター*活動等を通じた知識・技能の向上を図るとともに、市町村と連携した住民主体の避難所運営体制づくりを主導する快適避難所運営リーダー*を養成するなど、地域防災を担う人財の育成を強力に推進します。



防災クラブ（富岡東高校羽ノ浦校）

重点項目Ⅱ

一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

子どもたち一人ひとりが夢や希望を持ち、それに向かって努力し続ける力を身に付けるとともに、お互いに尊重し合い、能力や個性を発揮しながら、誰もが主役として輝く教育を推進します。

地域の宝である子どもたちが、家庭や地域、学校で大切に育まれ、豊かな人間性や社会性を身に付けて健やかに成長し、元気な子どもたちの笑顔があふれるとくしまを創造します。

① 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成

○ 「知徳体」が一体となった成長を支援

子どもたちが、夢に向かって努力し、たくましく生きるために、心身ともに健康で、幅広い知識や教養、豊かな情操、道徳心などをバランスよく習得し、総合的な人間力を高める教育を推進します。

学校教育において、それぞれの校種における連続性のある教育活動の推進により、小一プロブレム*や中一ギャップ*の解消に努め、子どもたちの笑顔あふれる学びの場を創造するとともに、「学力向上『徹底』プロジェクト」*による学力の向上、「元気なあわっ子憲章」に基づく子どもの健康づくりなど、「知徳体」が一体となった成長を支援し、社会における一員として、自立し、協働できる人財を育成します。

図5 元気なあわっ子憲章



○ 質の高い幼児教育の推進

県内すべての乳幼児が養育環境に関わらず、生涯にわたる人格形成の基礎を培う質の高い幼児教育・保育を提供するため「認定こども園※」の設置促進、保育教諭、幼稚園教諭及び保育士に対する研修の充実など必要な環境整備に取り組むとともに、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実に図ります。



認定こども園（助任なかよし認定こども園）

○ 生命・絆の大切さに関する教育の推進

中学・高校生をはじめとする若い世代に対して、かけがえのない生命を守るため、安全・安心な妊娠・出産に関する知識や情報を提供し、ライフプランの意識付けを行うとともに、経済優先・個人優先の価値観だけでなく、子どもを生み、育てることの意義、子どもや家庭の大切さについて理解を深める取り組みを推進します。



赤ちゃん授業（川島中学校）

○ 子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり

深刻化・複雑化する子どもの問題行動等に対し、子どもたちの尊厳が守られ、健全な生活が送れるよう、学校・家庭・地域が協働して、より多くの大人が子どもの悩みや相談を受け止めることができる環境づくりを推進します。

特に、いじめについては、児童生徒が、周囲の友人や教職員と信頼できる関係の中、規律正しい態度で主体的に参加・活躍できる授業や行事に取り組むとともに、いじめ問題について学び、教職員と一体となって、いじめの芽を敏感に察知し、絶対にいじめを許さない学校づくりを進めます。

○ 未来を拓く教職員の育成

すべての教職員が主体的に学び、自己を高め、学校目標を達成できるよう、ライフステージに応じた体系的な研修の実施や心身の健康保持・増進、ワークライフバランスの浸透を図ることにより、生き生きとみんなが輝く学校づくりを推進します。

○ 教職員の負担軽減と経営感覚の醸成

教職員が「子ども目線」に立ち、一人ひとりの児童生徒に向き合える環境を整えるため、ICTの利活用をはじめ、不断の業務改善による負担軽減を推進するとともに、教育予算が未来への先行投資であり、かつ、国民の税金によって支えられているとの認識のもと、社会の変化や動きに的確に対応した経営感覚・コスト意識の醸成を図ります。

② 学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進

○ 地域総ぐるみの子育ての実現

地域の実情に応じた学校と家庭・地域の連携協働体制を構築するとともに、週末等の教育活動の充実や放課後児童クラブ[※]と放課後子供教室[※]の一体的又は連携した実施空き教室の有効活用など組織横断的な連携はもとより、市町村、企業等を含めた「オール徳島」で施策を推進します。



放課後子供教室（美馬市脇町小学校区）

人生経験豊富な高齢者の子育て支援活動への参加やユニバーサルカフェ[※]における多世代交流など、県民参加により人と人とのつながりや絆を深め、地域の子育て力や教育力の強化を図ります。

○ すべての子どもに均等な教育機会の提供

子どもへの教育機会の提供が生まれ育った環境によって左右されることなくまた、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、学校をプラットフォームとした福祉関係機関との連携、生活困窮世帯等への就学支援の充実など、次代を担うすべての子どもが、将来に夢と希望を持って成長していける社会の実現のため、子どもの貧困対策を推進します。

○ **豊かな心の育成**

他人を思いやる心やおもてなしの心、自分への信頼感や自信、生命を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義や公正さを重んじる心など豊かな心を育むため、家庭や地域と連携した体験活動・交流など、多様な機会を通じ、道徳性を培う教育の充実を図ります。

○ **家庭教育支援の充実**

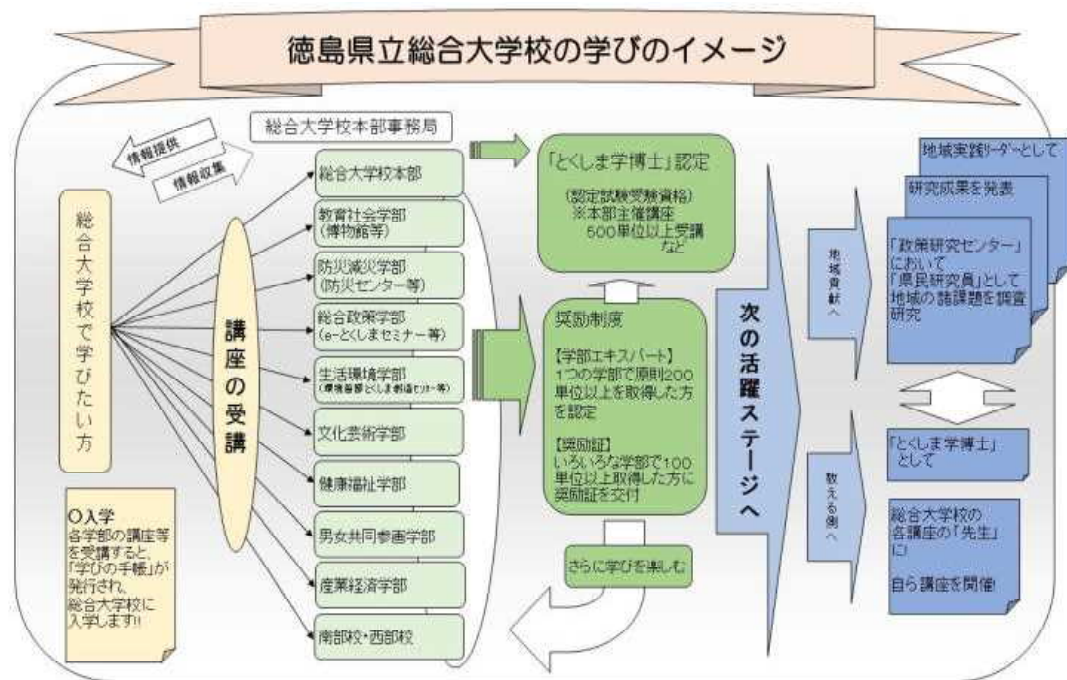
家庭は、子どもたちの健やかな育ちの基盤であり、すべての教育の出発点であるとの認識のもと、社会全体で家庭教育をサポートする気運を醸成するとともに、関連する情報の提供や相談対応、子育て支援サービスの充実など、各家庭の自主的な取り組みを多面的に支援します。

○ **生涯にわたって学び続ける環境づくり**

まなびーあ徳島やシルバー大学校*など、子どもから高齢者まで県民一人ひとりが生涯にわたって学び続ける徳島ならではの学習機会を提供するとともに、文化の森総合公園や公民館等の社会教育施設を拠点とした活動の充実を図ります。

県民が学び続けた知識を地域に還元できるよう、とくしま学博士*やシニアITアドバイザー*などが活躍できる機会を充実します。

図6 まなびーあ徳島（県立総合大学校）学びのイメージ



③ 時代の潮流を見据えた学びの推進

○ 将来を担う若者への主権者教育の充実

選挙権年齢が18歳以上に引下げられたことに伴い、小・中・高校のそれぞれの段階において、政治や選挙制度に対する理解と参加意識を高めるとともに、模擬投票などの体験型学習を実施することにより、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実に取り組みます。



模擬投票(富岡東高校)

○ 全国モデルの消費者教育の推進

消費者情報センターにおける相談体制の充実、消費者教育の拠点としての機能強化を図るとともに、就学前の金銭教育から消費者大学校*・大学院における地域の消費者活動を推進するリーダーの養成など各ライフステージでの体系的な取り組み、高校生が発信するエシカル消費*の実践など、全国モデルとなる消費者教育を推進します。



エシカル消費(城西高校)

○ 未来へつなぐ環境教育の推進

風力・水力・太陽光等の発電や環境学習の拠点となる施設の整備、全国展開をリードする水素社会の構築や水素啓発・体験ゾーンの活用など、未来のエネルギーである自然エネルギーと水素への関心を高め、その普及促進を図るとともに、参加体験型学習や自然保護活動を通じて、環境を保全する新たな担い手を育成するなど、美しく豊かな環境を未来へつなぐ教育を推進します。



田んぼの学校(環境教育)

○ **新たな成長産業を生み出す教育の推進**

本県経済の基幹をなし、良質な雇用の場である「ものづくり産業」において、著しく進展する技術革新に対応し、新たな価値を生み出していくため、これを担う創造性豊かな人財を育成する実践的な職業教育体系を構築します。

県立高校における農・工・商連携の推進、県立農業大学校の専修学校化、全国初の6次産業化をテーマとした徳島大学生物資源産業学部の新設など、将来の選択肢を広げる基盤づくりが展開される中、本県の強みである農林水産物の付加価値をさらに高めるとともに、新たな「とくしまブランド」を生み出す発想と産業を開拓する創造的実行力を育成するため、新たな6次産業化人材育成システムを構築します。



徳島大学生物資源産業学部新設
キックオフシンポジウム

重点項目Ⅲ

グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

豊かな自然や地域に受け継がれている伝統文化などに直接触れ、体感することにより、郷土への愛情を育むとともに、その魅力を積極的に発信します。

「ふるさと徳島」への誇りを胸に、多様な価値観への理解と国際的な視野を持ち、あふれる「進取の気質」で才能を磨き、世界を舞台に活躍するグローバルな人を育てます。

① 徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進

○ 郷土愛を育む教育の推進

県民一人ひとりが「ふるさと徳島」への誇りをもち、郷土を愛する心を醸成するため、地域資源を活かした多様な体験・交流活動の機会を創出します。

あわ文化や近現代の優れた芸術作品に直接触れあう機会を設けるとともに、徳島に根付いた文化について学び、ふるさと徳島の魅力を発信する「あわっ子文化大使」*など、次代のあわ文化の担い手を育成します。



あわっ子文化大使

県内高等教育機関と連携して、地域の課題解決や活性化に向けた地域連携フィールドワーク*講座の開講、ボランティア活動を大学の単位として認める「ボランティアパスポート*」拡充に取り組むなど、地方創生を担う人財を育成します。



高開石積調査（地域連携フィールドワーク）

○ **大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大**

大学との連携による地域の課題解決や活性化を図るため、大学等サテライトオフィス開設支援制度を活用し、県内外の大学サテライトオフィスの誘致により、地域密着した教育・研究活動や公開講座等の地域貢献活動を促進します。



大学サテライトオフィス

○ **若者による未来志向のアイデアの創出**

若者が自由な発想と新たな視点で、自由闊達に夢を語り、従来の枠にとらわれない創造的なアイデアを提案する「とくしま若者未来夢づくりセンター」の活動を通じ地域への理解を深め、多様な価値観を共有しながら創りあげた新たなアイデアが政策に反映される達成感を味わうことで、「ふるさと徳島」に貢献する意欲あふれる人財を育成します。



とくしま若者

フューチャーセッション

○ **「とくしま回帰」の促進**

大学生等の県内就業を促進し、本県産業を担う人財の確保を図るため、経済団体や企業と連携して、奨学金返還支援制度*を創設し、県内事業所等に一定期間就業した学生の奨学金の返還を支援するとともに、県内企業のインターンシップの拡充を図るなど、若者の地元定着を促進します。

○ **世界遺産登録への挑戦**

文化遺産等の保存・活用を進め、先人の貴重な遺産を後世に引き継ぐとともに、地域への誇りや愛着を育むため、「四国八十八箇所霊場と遍路道」、「鳴門の渦潮」の世界遺産登録を目指した取り組みを推進します。



世界遺産登録推進ポスター

② 世界に羽ばたくグローバル人財の育成

○ 徳島発、世界を体感できる環境づくり

Tokushima英語村*プロジェクト、徳島ウインターキャンプ*など本県独自の取り組みにおいて、志高き仲間との切磋琢磨を通し、コミュニケーション能力、語学力はもとより、総合的な人間力を高め、次代のトップリーダーとして育成し、世界に羽ばたく教育を推進します。



中学生 English キャンプ
(Tokushima 英語村プロジェクト)

海外の学校との交流活動の展開や高等教育機関、経済団体、企業が一体となって海外留学や国内外インターンシップ活動を支援することにより、グローバルな視点と地域の視点（ローカル）を兼ね備えたグローバル人財を育成します。

○ 科学の魅力を実感し、世界に挑戦

県内外の大学生等が、県内の高校生と一緒に学び、科学の素養を磨く「とくしま科学技術アカデミー」を創設するとともに、県内の小・中学生へ体験型の科学の出前講座などを実施する体験型講座を開講し、科学技術の未来を切り拓く人財を育成します。



中学生科学技術体感講座

日本が世界に誇る科学分野において、自主的に取り組む能力と意欲のある子どもたちが、知識を旺盛に吸収し、自分自身で真理を探究しながら、国際科学オリンピック*や科学の甲子園*などを目指し、より高い次元へと自己研鑽するチャレンジを支援します。

③ 国際舞台で躍動するアスリート、アーティストの育成

○ 世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり

将来性、潜在能力の高い人財を発掘し、トップレベルの競技者へと育成するため、ジュニア期からの一貫した指導やスポーツ医・科学を活用した集中的な育成、トップスポーツ校による重点的な競技力の強化、有望選手への支援など高等教育機関や企業との連携を図りながら各種施策を積極的に展開し、2020年東京オリンピック・パラリンピックへ、本県からのアスリート輩出を目指します。



トップスポーツ校（阿南工業高校）

○ 世界に輝く「あわ文化」の創造・発信

全国初、二度の国民文化祭を通じ、魅力を発信した「阿波藍」「阿波おどり」「阿波人形浄瑠璃」「ベートーヴェン第九」の四大モチーフに代表される「あわ文化」にさらに磨きをかけ、徳島ならではの「文化プログラム」を創造し、東京オリンピック・パラリンピックを見据え世界に向け発信するとともに、一流の芸術文化を鑑賞・体験する機会を創出し、徳島から世界へ羽ばたく創造性豊かなアーティストを育成します。



参考資料編

- 1 策定までの経緯
- 2 地方創生“拳県一致”協議会における主な意見
- 3 総合計画審議会若者クリエイイト部会委員との意見交換
における主な意見
- 4 大綱策定に向け、ご論議・ご提言等をいただいた
関係機関
- 5 用語解説

1 策定までの経緯

平成27年6月3日	第1回総合教育会議
平成27年7月7日	平成27年度第1回地方創生“拳県一致”協議会
平成27年7月9日	第2回総合教育会議
平成27年7月13日～ 平成27年8月13日	アイデアパブリックコメント、フェイスブックによる意見募集
平成27年8月4日	徳島教育大綱(仮称)策定に係る意見交換会 (総合計画審議会若者クリエイティブ部会委員との意見交換)
平成27年8月11日	第3回総合教育会議
平成27年9月24日	第4回総合教育会議
平成27年10月1日	徳島県議会9月定例会総務委員会において 大綱骨子(案)を報告
平成27年11月10日	第5回総合教育会議
平成27年11月1日～ 平成27年12月21日	パブリックコメント
平成27年11月26日	徳島県議会12月定例会総務委員会において 大綱(案)を報告
平成27年12月25日	第6回総合教育会議

2 地方創生“拳県一致”協議会における主な意見

平成27年7月7日に開催されました「地方創生“拳県一致”協議会」において、地方創生を成し遂げる人材の育成を行うための教育について、各種ご意見及びご提言をいただきました。その主なものについては、次のとおりです。

- ・自立心や人間らしさをもてる情操教育が将来の地方創生を担う人材育成に必要。
- ・人間社会の根幹をなすものを幼少期から教えていくことが大事。
- ・正規の学習科目に加え、家族を愛し、隣人を愛し、学友を愛する心の醸成・人格形成が図られる教育が必要。
- ・心を育む教育が大切。幼稚園・小学校では、おもてなしの心を教えることが重要。
- ・今ある高校は残し、統合しないという視点をもたないと子どもがいなくなり、地方創生はできない。田舎はなくなってしまう。
- ・国立大学は大学改革加速期間。生物資源産業学部の新設など、まさしく地方創生をキーワードに改革を進めている。
- ・小中一貫や中高一貫、選択できる教育環境づくりが重要。
- ・発達障がい児は、様々な小中学校に通っており、その子どもたちにも充実した教育を受けられる体制整備が必要。また、不登校の生徒が学ぶことのできる環境整備が重要。
- ・那賀高校の森林クリエイト科は、非常にいい話。そういったものが複数できてくることで、その後の大学とか、地元に戻ることにつながるのではないかと。
- ・森林クリエイト科、鳴門渦潮スポーツ科学科のように、特色を生かした「徳島ならではの」の学科を作っていくことにより、徳島で教育を受けたいという人が増える。全体的な学力・体力アップだけでなく、魅力ある教育が必要。
- ・大学を出た人が地域に戻ってこられる仕組みが必要。ある年齢に達したら、子どもがその地域で学校に行かれないから、家族で引っ越し、空洞化が起こる。
- ・南海トラフ巨大地震に備え、四国初の防災学科を作ってもらいたい。
- ・ニートや不登校の子どもたちは、社会だけでなく、学校からも排除され、非常に孤立している。その人たちを支援している団体と連携してバックアップすることが必要。
- ・中学校では、グローバルな視点を学ぶことが必要。牟岐での英語村、こういう徳島ならではの考え方を広げていくのが大事。
- ・今の子どもたちは、自分たちの町を知らなすぎる。もっと自分たちの町を教える時間が必要。そして、町に誇りを持てるようになることが重要。
- ・ふるさとを愛する心を教育の現場でどう醸成するのが大事。民話の伝達など教育の小さな積み重ねが地方創生に繋がっていくのではないかと。
- ・あまりに県内のことを知らなすぎる。もっと文化面で誇りうるものがあることを子どもの時代に教え、徳島をもっと好きになってもらいたい。徳島で働きたいという気持ちが子どものころから生まれるように、徳島を自慢できるよう取り組んでいただきたい。
- ・教育は子どもたちだけでなく、全体だと思ふ。生涯教育もあるので視野を広げて取り組めば、地方創生に繋がる。
- ・これまでは、知識を詰め込む教育だったが、知っていることを行動に表せるような教育をして欲しい。特に地域で地域を守っていく取り組み、小さい頃からそういう体験を積み重ねていけるような教育をして欲しい。
- ・限られた予算の中で教職員の待遇も含めていかに実効的に教育に取り組むか。また、与えられた予算だけでなく、企業も含め、全体で教育を考え、地域で育てることが重要。
- ・富田中学校では空き教室で竹とんぼ等を教えている。シニア世代との交流により、子どもたちが学ぶことも多い。
- ・一人一人のやる気と能力が重要。高校生に起業のおもしろみを感じてもらおうなど、働くことがおもしろいという気持ちを醸成する教育を推進していただきたい。
- ・労使ともに基本的なルールを知らないことが多い。働くということの意義とルールを教育の現場で十分に教えていくことが必要。
- ・労働意欲・労働の喜びを与えられる教育が重要。
- ・自分と地域、自分と社会との関連性を学ぶ活動が重要。「フィールドワークは徳島」というキャッチフレーズを掲げ、県内のみならず、県外の学生も呼び込むため、フィールドワークパスポートを発行してはどうか。
- ・教育がどのように将来や現場に役立っているかを知るために現場に行く機会を増やして欲しい。また徳島への愛を育てるための教育を実践して欲しい。
- ・正式の教科の中に遊びを入れて欲しい。子どもは遊びの中から学び取ることが非常に多い。
- ・0歳児の「赤ちゃん和妈妈が先生」という授業を行っており、その中で家庭を作る、妊娠出産に夢を持てる命の授業が非常に大事と感じている。
- ・成功した社長等、徳島県出身の著名人から学ぶなど、子どもたちが夢を持てる教育が必要。

3 総合計画審議会若者クリエイティブ部会委員との意見交換における主な意見

平成27年8月4日に総合教育会議委員と総合計画審議会若者クリエイティブ部会の皆様との間で「徳島県教育大綱（仮称）策定に係る意見交換会」を開催し、各種ご意見及びご提言をいただきました。

その主なものについては、次のとおりです。

- ・タブレットの配布などを通じて、ICTを活用した遠隔地での教育の推進が必要
- ・ICTを活用し、クラス単位の授業に縛られないことで、いじめや不登校手前の子どもの居場所づくりに活用できるのではないか。
- ・ICTについては、充実することで、発達障がいの方の教育にも活用が可能。
- ・特別支援教育について、「療育面」から一歩進めた「専門的能力」を伸ばす教育を行って欲しい。
- ・発達障がい児はみんな天才であるという誤った風潮の是正を行っていただきたい。
- ・四国の大学で行っているek4（四国地区大学間e-Learning連携）を高校に拡大できないか。
- ・災害発生時の若い世代のボランティア力は、非常に重要。南部圏域で、四国初の危機管理防災学科の創設を是非進めて欲しい。
- ・自分の強みが何かを言える教育を小さい頃から行う必要がある。
また、大人に対する教育も同時に行うことが重要である。
- ・自分が地域とどう関わっているかを知り、自分が地域で生きる価値を培う教育を親や保育園等社会全体で教えていく社会教育が教育の根底にあって欲しい。
- ・担任との意思疎通がうまくいかない場合にカウンセリング的にバックアップするシステムづくりが必要。
- ・幼稚園・保育所等における障がい児の受入体制の充実を図っていただきたい。
- ・子どもたちの意見をしっかり吸い上げる仕組みづくりが重要。
- ・子どもの自主性を踏まえ、大人が枠に入れない、子ども目線の教育が必要。
- ・お遍路さんの「おせたい」など、幼少期からのフィールドワークを通じた「おもてなしの心」を育むことが重要
- ・ふるさと徳島の歴史文化の教育について、フィールドワークに加え、どう「継承」していくかに視点を当てることも必要。
- ・漁業や農業、LEDなど徳島の強みを生かし、県全体をフィールドとする「リアルキッズニア」として発信することで人を呼び込むことができる。
- ・教職員も含め、もっと地域に出られる体制整備が必要。
- ・夢を持てる子どもを育てるためどうすべきか、先生はもっと発言する必要がある。
- ・あらゆる分野での次世代育成及び後継者対策が重要。
- ・学校では、頑張っている部分も多数存在する。もっと学校に足を運んでもらいたい。
- ・夢のある教育を行うため、子ども目線で取り組むことが重要。大人の社会の常識でテクニックを教える教育ではなく、発想力から適性を見いだす、子ども目線の教育に変えないといけない。
- ・サマースクールを拡充し、インターナショナルスクールを作り、英語を身近に感じるとともに、人材育成を行ってはどうか。
- ・国際社会との交流機会を増やす必要がある。牟岐の英語村で国際感覚を養うとともに、地元との交流も活発に行う。これを特区的なことで進めて欲しい。
- ・世界一流の人の講演でなく、ラフなトークングを行うことで世界への親近感がわき、夢を持つことができる。
- ・東京オリンピックに向けたジュニアからの一貫した指導体制の整備が必要。

4 大綱策定に向け、ご論議・ご提言等をいただいた関係機関

◆総合教育会議

氏名	職名	氏名	職名
飯泉 嘉門	徳島県知事	坂口 裕昭	徳島県教育委員会委員
松重 和美	徳島県教育委員会委員長	三牧 千鶴子	徳島県教育委員会委員
西 泰宏	徳島県教育委員会委員長職務代理者	佐野 義行	徳島県教育委員会委員(教育長)
田村 典子	徳島県教育委員会委員長職務代理者		

◆地方創生“拳県一致”協議会委員

氏名	所属等	氏名	所属等
近藤 宏章	徳島県商工会議所連合会 会長	岡田 好史	一般社団法人徳島県銀行協会 代表理事
岡本 富治	徳島県商工会連合会 会長	荒木 光二郎	日本銀行徳島事務所 所長
山本 紘一	徳島県中小企業団体中央会 会長	沢田 昭弘	日本政策金融公庫徳島支店 支店長
西宮 映二	一般社団法人徳島経済同友会 代表幹事	森本 佳広	日本労働組合総連合会徳島県連合会 会長
柿内 慎市	徳島県経営者協会 会長	川越 敏良	公益社団法人徳島県労働者福祉協議会 会長
住友 武秀	一般社団法人日本旅館協会徳島県支部 支部長	植田 和俊	一般社団法人徳島新聞社 理事社長
清重 泰孝	一般財団法人徳島県観光協会 理事長	木下 千里	NHK徳島放送局 局長
寺井 正遼	徳島県農業会議 会長	漆原 完次	四国放送株式会社 代表取締役社長
中西 庄次郎	徳島県農業協同組合中央会 会長	大南 信也	NPO法人グリーンパレー 理事長
杉本 直樹	徳島県森林組合連合会 代表理事会長	横石 知二	株式会社いろどり 代表取締役社長
久米 順二	徳島県漁業協同組合連合会 代表理事会長	連記 かよ子	もんてこい丹生谷運営委員会 顧問
原 秀樹	徳島県市長会 会長	植田 佳宏	大歩危・祖谷いってみる会 会長
石川 智能	徳島県町村会 会長	岸 一郎	社会福祉法人徳島県社会福祉協議会 会長
香川 征	徳島大学 学長	松崎 美穂子	NPO法人子育て支援ネットワークとくしま 理事長
桐野 豊	徳島文理大学 学長	加渡 いづみ	働く女性応援ネットワーク会議 会長
松重 和美	四国大学 学長	青木 正繁	徳島県総合計画審議会若者クリエイティブ部会 部会長
町口 雅治	徳島県高等学校長協会 会長	福島 明子	徳島県総合計画審議会若者クリエイティブ部会 副部会長

◆総合計画審議会「若者クリエイティブ部会」委員

氏名	所属等	氏名	所属等
蔭山 洋子	フリーアナウンサー	池添 純子	阿南工業高等専門学校 助教
川真田 彩	(特非)新町川を守る会 会員	岡田 育大	(株)フォレストバンク 代表取締役
近森 由記子	徳島県青年国際交流機構 会長	竹内 祐介	(株)ダクソフト システムソリューショングループ 徳島チームフエンジニア
樋泉 聡子	(株)神山神領 社員	福島 明子	四国大学 講師
青木 正繁	ソーシャルワーカー	村松 享	(特非)麓庵トラスト 事務局長

5 用語解説

あわっ子文化大使

郷土徳島の文化や文化財について学び、ふるさとを愛し、大人になってからも、徳島の文化について誇りを持って、県内外で発信できる中学生を知事が認定するもの。

エシカル消費

環境や社会に配慮した製品やサービスを選んで消費すること。

快適避難所運営リーダー

市町村職員や自主防災組織構成員で、市町村と住民の連携のもと多様な住民の視点を取り入れ地域の実情にあった避難所運営訓練の実施や発災時において避難者がより快適に過ごせる円滑な避難所運営体制の早期確立を主導する者。

科学の甲子園

国立研究開発法人科学技術振興機構が主催し、各都道府県から高等学校の生徒による代表チームを集め、理科・数学・情報等から複数の競技を行う取り組みである。各都道府県では、代表チームを決定するための都道府県予選を実施。

学力向上徹底プロジェクト

県内の中学校及び当該中学校区の小学校を研究拠点校として指定し、指導主事等による指導の下に実践研究の展開や、小4から中3までのトータル6年間を通した学力調査の実施などによる学力向上の取り組み。

キャリア教育

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程）を促す教育。

国際科学オリンピック

世界中の中学生・高校生を対象とした科学技術に関する国際的なコンテストであり、「知のオリンピック」と呼ばれている。

サテライトオフィス

本社と離れた場所にありながら、ICT(情報通信技術)を活用することによって、本社と同様の仕事環境が整えられたオフィス。

自主防災組織

地域住民が災害による被害の防止及び軽減を図ることを目的として自主的に組織するもので、地域内の安全点検や防災知識の普及・啓発、また災害時には、初期消火、避難誘導等の防災活動を行う。

シニアITアドバイザー

高齢者がより充実した生活を実現することを応援する制度であり、「(株)富士通ラーニングメディア」が、パソコン初心者の方の指導を担える高齢者の方を対象に、「パソコンに関する知識」と「アドバイス技術」が、一定以上の保持者であることを認定する試験を実施し、その合格者がアドバイザー資格を有する。

小一プロブレム

小学校に入学したばかりの小学1年生が、集団行動をとれない、授業中に座ってられない、話を聞かないなどの状態が数ヶ月継続すること。

奨学金返還支援制度

地域に就職・定着かつ地域の中核企業等を担うリーダー的人材を確保して、地方経済の牽引役となる産業を成長・拡大させるため、奨学金を借り入れた大学生等が、卒業後、県内の対象業種に一定期間以上就業した場合に奨学金の返還を支援するもの。

消費者大学校

消費者自身の消費者問題への対応能力と消費者教育を行う指導力の開発を援助し、地域における消費者活動を推進するリーダーを養成するため、昭和62年から開講。

シルバー大学校

高齢者自身が、生きがいを持って豊かな高齢期を創造するとともに、地域福祉の推進リーダーとなるよう、能力の再開発を支援することを目的として設置。

総合教育会議

知事と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図るため設置を行うもの。構成員は知事及び教育委員であり、知事と教育委員会という対等な執行機関同士が協議・調整を行う場。

地域防災リーダー

防災に関する知識や技術を持ち、平時および発災時に、各地域や職場、学校等における防災活動で中心的役割を担う者。

地域連携フィールドワーク

大学との連携による「地域の課題解決」や「人材育成」を図るため、学生が地域に入り、住民の皆様とふれあひながら学習する「農業体験」や「石積み測量調査」などの「地域連携フィールドワーク講座」の開講を支援するもの。

中一ギャップ

小学生から中学1年生になり、新しい環境（学習・生活・人間関係）になじめず、不登校やいじめなどいろいろな問題が出てくる現象。

徳島ウインターキャンプ

高校生が、教科や学問の分野において知的な刺激を受け、切磋琢磨する合宿を通して人間力の向上につなげ、学校の枠を越えたネットワークを作る取り組み。

Tokushima英語村

県内において、意欲ある小・中・高校生のそれぞれを対象に、海外大学生や外国語指導助手（ALT）等との交流をとおして英語で体験的に学ぶ機会を提供し、グローバルマインドを身に付けた人材を育成するプロジェクト。

とくしま学博士

県立総合大学校での学びを通して、徳島に関する自然、文化、地理、歴史、ICT、健康、福祉などの広範な分野（いわゆる「とくしま学」）を探究した方で、講師等となって地域社会に貢献する意欲のある人材であり、「とくしま学博士認定試験」に合格した方を「とくしま学博士」として認定。

認定こども園

小学校就学前の子どもに保育及び教育を一体的に提供し、地域における子育て支援機能を備えた施設として、都道府県知事が認可または要件を満たす幼稚園・保育所等を認定したもの。

発達障がい者総合支援ゾーン

赤十字病院跡地に、福祉・教育・医療・就労等の各部門（発達障がい者総合支援センター、みなと高等学園、赤十字ひのみね総合療育センター、赤十字乳児院）を集積、「総合支援ゾーン」を形成し、発達障がい者やその家族が安心して充実した生活ができるよう、相互連携による総合的な支援を実施。

福祉的就労

障がいにより、一般就労が困難な方が、福祉的支援を受けながら就労すること。

放課後子供教室

地域住民の参加を得て、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを推進する、すべての子どもを対象とした、安全・安心な子どもの活動拠点。

放課後児童クラブ

保護者が昼間家庭にいない小学生に対して、児童館や学校の余裕教室等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、健全育成を図る事業（学童保育ともいわれている）を行っている地域組織。

防災啓発サポーター

県内在住の防災士資格取得者が、「防災啓発サポーター（中学英・高校生等は「ジュニア防災啓発サポーター）」として登録し、県立防災センターでの防災啓発業務のサポートや防災情報・各種講座・イベント情報等の広報などのボランティア活動を行うとともに、この活動を通して防災知識や技能の向上も目指す。

ボランティアパスポート

大学生の地域貢献活動を促進するため、県がボランティア活動記録を証明する3種類のボランティアパスポート（緑・赤・青）とボランティア情報を提供し、大学は、パスポートを活用して県内各地域で一定期間ボランティア活動に従事した学生に対して単位等を認定する制度のことで、平成27年度から徳島大学で先行実施。

ユニバーサルカフェ

高齢者から若者や子どもまでの交流の推進や障がい者や外国人など全ての人々に対する生活・福祉サービスを展開する、多世代交流・多機能型のワンストップ型福祉拠点。

リーディングハイスクール

特色ある教育を実践するため、「中等教育」では城ノ内中学校・高等学校、「スポーツ」では鳴門渦潮高等学校、「文化芸術」では名西高等学校をリーディングハイスクールとして指定し、教育環境と教育内容の充実を図ることにより、各分野を牽引する学校づくりを推進。

